

IV 土地利用の方針

本市は北を和泉山脈、南を紀伊山地からの御茶屋御殿山と、南と北を緑の山々が連なり、市の南部に紀の川が流れるといった豊かな自然に恵まれています。古くはまちの中心部には田畑が広がり、緑豊かな田園風景でしたが、宅地開発が進み、宅地と田畑が混在する状態となっています。また、超少子高齢・人口減少社会の到来や産業形態の変化などの影響から農家の担い手が減少し、農地から宅地などへの転用が止まらない状況となっています。

一方、市内を東西・南北に走る国道24号や府県道泉佐野岩出線、県道粉河加太線など主要な幹線道路には、ロードサイドショップが立ち並び、近隣地域からも日常の買い物に多くの人が集まっています。また、将来関西外環状道路の一部となる京奈和自動車道インターチェンジ周辺は、商工業施設の集積地として期待できます。

これらの状況を踏まえ一段と進む超少子高齢・人口減少社会の中、暮らしやすく環境にやさしい、次の時代に向けた土地利用を促進します。

(1) 都市拠点・交流拠点・交流軸

大型商業施設をはじめ多くの店舗等が集積立地する国道24号周辺及び市役所からJR岩出駅周辺までの既存市街地を都市拠点として位置づけます。また、京奈和自動車道インターチェンジと府県道泉佐野岩出線が交わる根来寺や和歌山県植物公園緑花センターなどの

地域周辺を市内だけでなく周辺都市の住民を含めた多様な交流を促進する交流拠点として位置づけを行い、この2か所の拠点を結ぶ府県道泉佐野岩出線沿線周辺を交流軸として形成を図ります。



(2) 環境保全

御茶屋御殿山を含む紀の川一帯と和泉山脈が本市の豊かな自然環境の骨格を形成しており、環境保全に努めるとともに、自然とのふれあいの場として活用を促進します。

(3) 自然・農住共生

豊かな自然環境や農地と居住環境の調和を目指した計画的なまちづくりを促進し、快適な生活空間の創出を図ります。



都市構造基本構想

